

2019年度地域人材育成・プロジェクト部門事業の実施報告

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10297/00027543 |

事業報告

2019年度地域人材育成・プロジェクト部門事業の実施報告

1 公開講座

| 講座名 | 開催日 | テーマ | 講師 | 対象 | 受講料 | 会場 | 定員 | 実数 | 主催 |
|--|---------------------|------------------|--|--|--------|---|----|-------------|---------|
| 日本人の知らない中国 [全11回] | 4/13 | 中国入門 | 人文社会科学部准教授・張 盛開 | 一般市民 | 無料 | 静岡大学 静岡キャンパス | 80 | 202 (延べ) | 人文社会科学部 |
| | | スーパー大国中国とどう付き合うか | 早稲田大学非常勤講師・張 剣波 | | | | | | |
| | 5/18 | 漢詩に親しむ | 人文社会科学部教授・埋田重夫 | | | | | | |
| | | 中国語と日本語の面白さ | 静岡大学非常勤講師・金 小賢 | | | | | | |
| | 6/3 | 中国語心理言語学 | 大学教育センター准教授・翟 勇 | | | | | | |
| | 6/22 | 日、中、韓の神話・説話比較 | 人文社会科学部教授・南 富鎮 | | | | | | |
| | | 漢方と薬膳 | 朝日テレビカルチャー講師・王 元武 | | | | | | |
| | 7/13 | 中国画 | 静岡大学非常勤講師・盧 思 | | | | | | |
| | | 日中の家族について | 地域法実務実践センター教授・朱 曄 | | | | | | |
| | 7/27 | 太極拳 | 静岡大学非常勤講師・周 佩芳 | | | | | | |
| 漢字文化 | | 人文社会科学部准教授・張 盛開 | | | | | | | |
| 安心登山・アウトドア活動のための読図とナビゲーションスキル (中級編) | 5/6 | | 教育学部教授・村越 真 オリエンテーリング日本代表選手・小泉成行 | 過去に初級編を受講した方、又は地形図の基礎知識がある登山経験者で6km程度を無理なく歩ける方 | 3,600 | 屋外(静岡市郊外) | 20 | 14 | 教育学部 |
| 私のミカン～ミカンの 通年管理教室～ [全5回] | 5/21 | 着花管理 | 技術部技術専門職員・成瀬博規 技術部技術職員・周藤美希 農学部准教授・八幡昌紀 | 一般市民 | 10,000 | 静岡大学農学部附属地域フィールド 科学教育研究センター 藤枝フィールド | 10 | 47 (延べ) | 技術部 |
| | 7/2 | 粗摘果 | | | | | | | |
| | 9/3 | 仕上げ摘果 | | | | | | | |
| | 11/12 | 収穫 | | | | | | | |
| | 3/3 | 整枝・剪定 | | | | | | | |
| 紅茶作りに挑戦しよう | 7/25 | | 農学部教授・稲垣栄洋 技術部技術専門職員・西川浩二 技術部技術専門職員・成瀬和子 | 小学生とその保護者、一般市民 | 1,000 | 静岡大学農学部附属地域フィールド 科学教育研究センター 藤枝フィールド | 20 | 17 | 技術部 |
| 作って学ぶ、工学部の 化学実験 | 7/27 または 7/30 | | 工学部教授・植田一正 技術部技術専門職員・草薙弘樹 技術部技術職員・早川敏弘 | 中学生・高校生(保護者同伴可) | 無料 | 静岡大学 浜松キャンパス | 20 | 37 (延べ) | 工学部 |

| 講座名 | 開催日 | テーマ | 講師 | 対象 | 受講料 | 会場 | 定員 | 実数 | 主催 |
|---|-------|--------------------------------|---|--|-----|----------------------|-----|---------------------|-------------|
| 遺伝子の世界を見てみよう[全2回] | 8/7 | 爪や髪の毛からDNAを抽出する | グリーン科学技術研究所 准教授・道羅英夫 技術部技術職員・森内良太 | 県内高校生 | 無料 | 静岡大学 静岡キャンパス | 20 | 38 (延べ) | グリーン科学技術研究所 |
| | 8/8 | 光の大腸菌を観察する | グリーン科学技術研究所 特任助教・兼崎友 技術部技術職員・山本千尋 | | | | | | |
| 体験!大学の化学実験[全2回] | 8/17 | 水の分析実験 | グリーン科学技術研究所 教授・近藤 満 | 中学生・高校生 (保護者同伴可能)、理科教育の関係者 | 無料 | 静岡大学 静岡キャンパス | 30 | 41 (延べ) | グリーン科学技術研究所 |
| | 8/18 | ルミノールの合成と発光実験 | | | | | | | |
| 中高生のための心理学講座～身近なリスクの心理学～ | 8/20 | スマートフォンの心理学 | 人文社会科学部教授・橋本 剛 | 中学生・高校生 | 無料 | 静岡大学 静岡キャンパス | 120 | 42 | 人文社会科学部 |
| | | ゲーム依存 | 人文社会科学部教授・幸田のみ子 | | | | | | |
| | | その笑い、大丈夫?～薬にも毒にもなるユーモア～ | 人文社会科学部助教・高岡しの | | | | | | |
| 愛おしさから読み解くだもの多様性～園芸と民藝の融合～[全3回] | 9/20 | 青パパイヤ | 農学部准教授・松本和浩 | くだもの栽培、利用、消費に興味があり、多様な遺伝資源を使って地域を活性化したいと考えている市民、学生、生産者、企業人など | 無料 | 健康文化交流館「来て・こ」 | 60 | 148 (延べ) | 農学部 |
| | 10/11 | ニホンナシ | | | | | | | |
| | 11/22 | リンゴ | | | | | | | |
| 邦人作品の調べ～明治から現代にかけて～ | 9/28 | 明治から昭和初期の音楽作品 | 教育学部講師・服部慶子 教育学部准教授・長谷川慶岳 教育学部准教授・長谷川 慎 教育学部非常勤講師・大石陽介 | 一般市民・生徒・教員 | 無料 | 静岡市葵生涯学習センター(アイセル21) | 200 | 147 (延べ) | 教育学部 |
| | 11/23 | 昭和から現代の音楽作品 | | | | | | | |
| 静岡大学キャンパスミュージアム公開講座2019[全5回] | 10/5 | 大学構内の植物探訪 | 理学部准教授・徳岡 徹 | 一般市民、学生、小中高生(中学生以下は保護者同伴) | 無料 | 静岡大学 静岡キャンパス | 20 | 42 (延べ) | キャンパスミュージアム |
| | 10/19 | 静岡火成岩雑話 | 理学部准教授・石橋秀巳 | | | | | | |
| | | 旧制静岡高校から静岡大学へ～キャンパスをめぐるながら考える～ | 人文社会科学部教授・戸部 健 | | | | | | |
| | 10/26 | 身近な足もとの虫たち～土壌生物～ | 理学部非常勤講師、ふじのくに地球環境史ミュージアム教授・岸本年郎 | | | | | | |
| | 11/2 | 地上最強生物クマムシの観察と実験 | 技術部・宮澤俊義 | | | | | | |
| 静岡の自然と文化～東部・伊豆半島を中心に～ ※台風のため中止、2020年度開催予定 | 10/12 | 世界遺産・富士山と伊豆半島ジオパーク | 地域創造学環教授・小山真人 | 一般市民 | 無料 | プラザヴェルデ(沼津市) | 80 | — | 地域創造教育センター |
| | | アートでめぐる東海道in静岡 | 静岡大学名誉教授・白井嘉尚 | | | | | | |
| 市民社会と法[全5回] ※第5回(2/29)は新型コロナウイルス感染症流行拡大防止のため中止 | 11/9 | 働き方改革 その後 | 地域法実務実践センター特任教授・中村和夫 | 一般市民 | 無料 | 静岡市葵生涯学習センター(アイセル21) | 30 | 100 (第4回までの延べ人数) | 人文社会科学部 |
| | 12/7 | 中国相続法 | 地域法実務実践センター教授・朱 曄 | | | | | | |
| | 1/11 | 相続法の改正 | 地域法実務実践センター客員教授・上原裕之 | | | | | | |
| | 2/8 | 交通事故事犯と刑事法 | 地域法実務実践センター教授・吉川真理 | | | | | | |
| | 2/29 | 国際社会の諸問題と国際法 | 地域法実務実践センター教授・板倉美奈子 | | | | | | |

| 講座名 | 開催日 | テーマ | 講師 | 対象 | 受講料 | 会場 | 定員 | 実数 | 主催 |
|---|------|---------------------------|--------------|---------------|-----|-----------------|----|----|------|
| 情報学部公開講座 2019 学校におけるプログラミング教育の意義と課題 | 11/9 | 小学校でのプログラミング教育の現状とこれから | 情報学部助教・遠山紗矢香 | 興味のある方ならどなたでも | 無料 | 静岡大学 浜松キャンパス | 70 | 91 | 情報学部 |
| | | 高等教育におけるプログラミング教育の現状とこれから | 情報学部准教授・福田直樹 | | | | | | |
| | | プログラミング教育が社会に及ぼすインパクト | 情報学部教授・吉田 寛 | | | | | | |
| | | 学校におけるプログラミング教育の意義と課題 | 情報学部教授・太田 剛 | | | | | | |

2 静岡大学創立60周年記念事業を継承した連携講座

■静岡大学・読売新聞連続市民講座「令和を生きる～新時代への展望」

| 回 | 開催日 | タイトル | 講師 | 参加者 |
|---|------|--------------------------|------------------|-----|
| 1 | 7/6 | 自然災害と防災対策 | 防災総合センター准教授・原田賢治 | 134 |
| 2 | 8/17 | 日常と非日常からみるこころと脳の科学 | 情報学部教授・宮崎 真 | 158 |
| 3 | 9/7 | 環境は持続可能か?～微生物による環境浄化の開発～ | 工学部准教授・新谷政己 | 115 |
| 4 | 10/5 | スポーツによる地域の活性化 | 地域創造学環准教授・村田真一 | 109 |
| 5 | 11/2 | 人工衛星データが語る富士山・伊豆半島周辺の動き | 理学部講師・三井雄太 | 129 |

- ・会場：あざれあ（静岡県男女共同参画センター）6階大ホール
- ・参加費：無料
- ・主催：静岡大学、読売新聞東京本社静岡支局

■静岡大学・中日新聞連携講座「静岡大学が拓く新たな地平」

| 回 | 開催日 | タイトル | 講師 | 参加者 |
|---|-------|---|----------------|-----|
| 1 | 10/1 | 素数ゼミの謎～進化物語の科学～ | 工学部教授・吉村 仁 | 64 |
| 2 | 10/29 | 浜松発!情報科学的二輪車研究&センチメートル級!高精度衛星測位研究開発都市プロジェクト | 情報学部准教授・木谷友哉 | 65 |
| 3 | 11/12 | リスクをどう教えるか～SNSのリスクから子どもを守る～ | 教育学部准教授・塩田真吾 | 51 |
| 4 | 12/10 | 目に見えないものを加工する～ナノスケールに挑む顕微鏡技術～ | 工学部教授・岩田 太 | 64 |
| 5 | 1/21 | 電気計測標準について(量子標準の基礎) | 電子工学研究所教授・小野行徳 | 50 |

- ・会場：静岡大学浜松キャンパス附属図書館浜松分館（S-port）3階大会議室
- ・参加費：無料
- ・主催：静岡大学、中日新聞東海本社

3 地域連携応援プロジェクト

静岡大学学生・教職員が主体となり、すでに地域団体や自治体等と協働で取り組んでいる、または新たに取り組もうとする地域の活性化につながる活動を学内で公募し、支援している。2019年度は22件の応募があり、うち15件を採択した(下表)。これらの取り組みが進むことにより、学生・教職員の主体的な地域連携活動が促進され、地域とより密接に連携した静岡大学になることを期待する。

| 部局 | 代表者 | プロジェクト名 |
|------|--------|--|
| 教育学部 | 池田 恵子 | グローバル化する静岡～国際交流学習の効果の定着～ |
| 教育学部 | 川原崎 知洋 | 静岡県を訪れるツーリストの観光体験を向上させるデザイン実践～焼津さかなセンターと静岡浅間通り商店街を事例として～ |
| 教育学部 | 小林 朋子 | 子どものレジリエンス(精神的回復力)を育て、地域の小中高校をつなげるハブとなる授業実践 |

| | | |
|-----------------|-------|---|
| 教育学部 | 塩田 真吾 | 静岡県内の特別支援学校向け「トラブルを防ぐためのネットスキル講座」プロジェクト |
| 教育学部 | 高橋 智子 | 共生社会の実現に向けた就労系障害福祉サービスとの連携による「ものやこと」のデザインプロジェクト |
| 教育学部 | 亙理 陽一 | 西伊豆町英語教育推進支援事業 |
| 情報学部 | 杉山 岳弘 | 「西浦の田楽」の継承の大切さを伝える絵本制作プロジェクト |
| 情報学部 | 田中 宏和 | 小学生へのプログラミング教育支援事業 |
| 情報学部 | 田村 敏広 | 絵本読み聞かせ会による地域活性化と絵本の可能性発見プロジェクト |
| 工学部 | 立岡 浩一 | 浜松市と大学との連携事業～大学生による講座～（小学生児童を対象とした理科工作教室） |
| 工学部 | 能見 公博 | 静岡大学衛星 Stars-AO (AOI) を用いた地域の宇宙分野の普及啓発および理解推進 |
| 農学部 | 松本 和浩 | 伊豆地域での青パパイア特産化に向けた果実および栽培特性調査と加工品利用のレシピ開発 |
| 地域創造学環・防災総合センター | 岩田 孝仁 | 静岡市清水区小島における小学生に向けた防災教育活動 |
| 技術部 | 井上 直己 | 科学講座を通じた地域活性化プロジェクト in 吉田町 |
| 技術部 | 楠 賢司 | 浜松城跡24次発掘調査で出土した城郭岩石の採取地推定 |

4 地域課題解決支援プロジェクト

2013年度から開始した「地域課題解決支援プロジェクト」は、これまで大学との接点がなかった地域や団体から課題を公募し、新たな地域連携・貢献活動につなげようという取り組みである。2016年度には第2期公募を行い、第1期の27課題と第2期の15課題を合わせた全42課題をウェブサイトにて公開中であり、学内では各研究室・学生とのマッチングを進めている。また、各課題の進捗状況を下記ウェブサイトで紹介している。

ウェブサイト http://www.lc.shizuoka.ac.jp/areastudies_index.html

《第1期課題一覧》

| No. | 応募団体/関連団体 | 現在困っていること（地域課題）について | 大学に期待する支援について |
|-----|-------------------|---|--|
| 1 | 夢の里みつかわ あぐりい（袋井市） | 課題は「三川が誇る3つの財産（農業・環境・人）をより合わせ、欲しい、行きたい、住みたい三川地区を創る」こと。人との絆を大切に、心通い温もりのあるまちづくりに取り組みたい。 | ①出会いの場を提供し、結婚する人を増やす方策 ②袋井市地域の活性化方策 ③地産地消推進のための方策 |
| 2 | 御前崎市役所 | 過去の人口増加を背景に、原子力関連交付金等により公共施設の整備を進めたが、少子高齢化や人口減少により公共施設のあり方が変化した。公共施設マネジメントへの取り組みが必要である。 | ①今後の当市の財政状況分析 ②公共施設マネジメントの可能性及び取組手法 ③公共施設の費用便益分析 |
| 3 | ユークロニア株式会社（静岡市） | 県内の小中学校では、睡眠不足からくる問題が顕在化している。「睡眠授業」の依頼が増えているが、研修にはマンパワーが不足。地域の課題として睡眠を整えることができる仕組み作りが必要である。 | ①睡眠教育の標準化や効果検証 ②教育者の育成 ③静岡独自の睡眠問題調査により、地域に合った生活スタイルを探る |
| 4 | NPO複合力（静岡市） | 両河内地域の高齢化は進み、休耕農地が増えている。森林公園「やすらぎの森」は、老朽化にもかかわらず年間30万人が訪れる。脱・限界集落の手がかりを得て、地域を活性化する手立てを考えたい。 | ①農作物の品質を高め、商品化する栽培知識技術および竹林等を伐採し、循環型資源とする知識技術 ②グリーンツーリズムを活性化するための知識技術 ③大学生など若いマンパワーが恒常的に来園する方策 |
| 5 | 静岡市北部生涯学習センター美和分館 | 潜在的な利用者のニーズの把握が十分ではない。広く地域住民の生涯学習に対するニーズ把握のため調査を企画した。それにより、一層充実した学びの機会を地域に提供し、地域コミュニティ活動の推進につなげたい。 | 地域住民に対するアンケート調査への助言及び分析 |
| 6 | 静岡市立登呂博物館 | リニューアルオープン後、年々来館者数が減少している。イメージキャラクターを使った誘客活動を行ってきたが、マンネリ状態になっている。また、多様化する来館者に対応するため、多言語仕様の資料が必要となる。 | ①イメージキャラクターを活用した教育普及事業の開催への支援 ②登呂遺跡及び登呂博物館の概要を紹介した多言語対応パンフレットの作成とHPの構築 |

| No. | 応募団体/関連団体 | 現在困っていること（地域課題）について | 大学に期待する支援について |
|-----|---------------------------------|--|--|
| 7 | NPO法人富士川っ子の会（富士市） | 子育て支援中心の活動を、今後は生涯学習の観点から事業を広めていく必要がある。当NPO、行政、企業が協働できるようなテーマで解決を図る活動を展開するにあたって、活動拠点の確保、会員の若返り施策と後継者の育成が課題。 | ①当団体、行政、企業との協働により、団体の若返りと活動の幅を広げ、定款に示す事業展開の具体化 ②活動拠点の確保 |
| 8 | 油山川のマコモを根絶する会（袋井市） | 油山川では700mにわたってマコモが繁殖し、流下能力を著しく低下させ、景観上からも問題となっている。河川管理者が年に1回刈り取りを行っているが、マコモは繁殖力が旺盛で、2ヵ月もすると元の状態にもどってしまう。 | これまでの活動の中で、マコモは根が残っていると再生するが、完全に取り出せば再生しないこと、天地返しにより根が腐り取り出せることがわかった。マコモの生態研究、根絶手法の検証で研究支援を期待する。 |
| 9 | 袋井市三川自治会連合会 | 高齢者が地域社会に飛び出せない、“生き甲斐や社会貢献”の機会が確保できない。 | ①高齢者の意識調査 ②高齢者のライフスタイルの解析 ③高齢者の社会進出の仕掛けづくり ④全国での成功（失敗）事例の紹介 ⑤街づくりワークショップ等への共同参加 |
| 10 | 南伊豆新生機構（南伊豆町） | ①未利用の土地の有効活用がされていない ②地場産業が稼働していないため人口が流出 ③人材が育たず外部の人材との交流がうまくできていない ④行政の協力体制がない | ①知的アドバイスの支援 ②人材の支援 ③資金の支援 |
| 11 | 焼津市役所 | 高度成長期の急激な人口増を背景に公共施設の整備を進めてきたが、老朽化が進んでいる。効果的に公共施設をマネジメントしていく取組が求められている。 | 地域の人口推移の検証や施設の利用状況を詳細に分析し、老朽化を迎えている集会施設の複合化案について提案いただき、市民への説明、話し合いを経て、建設計画を実現可能レベルに調整 |
| 12 | 浮橋地域のスローフードを考える会（伊豆の国市） | 中山間地の活性化 | ①大学生の視点から、中山間地を幅広い世代にアピールするための意見がほしい ②ワークショップを取り入れながら、地元の自然を最大限に利用し農業・観光へと循環させるプランを検討してほしい |
| 13 | 株式会社アイ・クリエイティブ/ジョブトレーニング事業（静岡市） | ①ニート（若年無業者）増加問題 ②静岡県耕作放棄地増加問題 | [大学に望むこと] ニート・ひきこもりや発達障害などの教育心理の知恵を貸してほしい [ジョブトレーニングが提供できるもの] ゼミ等の一環として参加してもらうことで実態現場+学びの場を提供する |
| 14 | 松崎町 | 町内に残されているなまこ壁を配した歴史的建造物が所有者の高齢化や維持のコスト高等で取り壊されることが多い。町の財産ではあるが個人の所有物である歴史的建造物を、いかに後世に残していくべきか悩んでいる。 | 最小の費用で最大の効果のある維持や修繕方法を一緒に考え、古民家を利用したまちづくり手法と収益事業のアドバイスや、学生による町おこしや収益事業の模索など |
| 15 | 松崎町 | 町民の森「牛原山」を利活用したいが、中途半端に行政主導で整備してきたため町民の利用が少ない。眺望はよく、晴れていれば展望台からは富士山も望める素晴らしい山だが利用されない。 | 人が集まる仕掛けや町民が自ら維持や修繕に携われる方法を一緒に考え、里山の素晴らしさを内外に発信し、愛され利用される森にしたい。アドバイスや学生の知力、体力、気力を町おこしに活かしたい |
| 16 | 松崎町 | 松崎町では、ソフト・ハード両面からの防災施策が急務である。津波対策として水門の建設や防潮堤の嵩上げなど必要な事業だが、景観などの問題で全体の理解が得られない。 | 防災機能だけの無機質な防潮堤や水門を、どうしたら景観に配慮したデザインや機能を持たせることができるか、一緒に考えてほしい |
| 17 | 松崎町 | 過疎化・少子高齢化により耕作放棄地が急増している。このままでは荒地だらけになり、加盟を認められた「日本で最も美しい村」連合に恥ずかしい姿をさらしかねない。 | 耕作放棄地の解消だけでなく、継続的に利活用し続けることができる仕掛けづくりを期待する。当町での有効な作物の選別や耕作方法の指導、学生による農業体験事業化などでの協力がほしい |
| 18 | 松崎町商工会 | 中心市街地の商店街が過疎化・少子高齢化によりどんどん寂れていて、転居し空き地になるところが後を絶たない。空き店舗も多く、シャッター商店街になりつつある。 | 商店街の魅力発掘と、買い物弱者の高齢者に対する商店街への買い物支援法、商店街のアート誘致、コミュニティ公園化について助言がほしい。全体的なデザインについても関わってほしい |
| 19 | 浜松都市環境フォーラム（浜松市） | 浜松市はマイカーに依存した都市であり、深刻な渋滞問題が予測され抜本的な交通対策が急務である。工業都市として発展してきた浜松が今後も持続的に発展していくには観光・文化都市としてのまちづくりが必要となる。 | 持続可能な都市づくりは、行政・民間が扱いにくい空白の分野で、大学のもつ知的・人的資源を活用して研究する価値が高く、実現を前提に「特区」の認定を受けられるような研究を期待したい |
| 20 | 伊豆半島ジオパーク推進協議会 | 伊豆半島ジオパークの進捗を判断する評価指標や調査方法の不足。貴重な資源の保全、教育、防災、地域振興等、様々な分野での取組があるが活動の検証とフィードバックが難しい | 伊豆半島ジオパークの活動の進捗状況を把握し、フィードバックするためにどのような調査や指標が適当なのか、大学の知的・人的資源を活かしたモデル調査の実施各種資料の収集と分析等 |

| No. | 応募団体／関連団体 | 現在困っていること（地域課題）について | 大学に期待する支援について |
|-----|----------------------|---|---|
| 21 | 三保の松原フューチャーセンター（静岡市） | ①三保の松原の保全 ②三保の魅力を知り、次世代へ伝えていく仕組みづくり ③三保住民の安全な生活環境の確保 三保で活動している団体は数多く存在するが、横の連携が取れておらず、協働できるきっかけがほしい。 | ①耕作放棄地を活用し、三保自生の松から植樹用の松を育て、商品化するための支援 ②子供や住民が気軽に参加できるイベントを開催し、地域の関わりを強化するための支援 |
| 22 | 焼津市市民活動交流センター運営協議会 | 市内には市民団体が数多くあるが、団体相互の交流がなく、協働もできていない。焼津市の抱える様々な問題に行政、企業、市民が協働して解決策を模索するようになれば、もっと良いまちになると思われる。 | 市民活動の実態を知り、その活動を直接・間接に支援できる人材育成をお願いしたい。センターへの支援として、情報発信能力の強化、交流会の企画立案、市民が参加しやすい方法論の検討などがある。 |
| 23 | 静岡市葵生涯学習センター | ①「生涯学習」の学習格差の解消 ②「生涯学習」に興味・関心がない地域住民に「生涯学習」に取り組んでもらえるような支援 | ①地域の現状調査の一連の事業の中で調査方法や課題解消への取組方法、評価方法へのアドバイスがほしい ②大学生等の若年層の認知を高める手法を開発、事業実施をする |
| 24 | 伊豆を愛する会（南伊豆町） | ジオサイト候補地の里山を所有しているが、安全面への不安を理由に、町の観光協会と行政は活用に消極的である。地域の不安を取り除くために力を貸してほしい。 | ①岩石構造専門家の派遣をお願いしたい ②石切り場には昔の人が文字を掘った跡が何箇所もあり、解明されていないことも多く、歴史文化の専門家の派遣をお願いしたい |
| 25 | 静岡県／松崎町 | ①棚田保全・活用一石部地区の棚田を保全するとともに活用を検討 ②特産品を活用して加工品づくりと販路拡大までを検討 ③伝統芸能保存 ④大学と地域のネットワーク化 | ①既存のつながりでは生み出されていない部分の開拓に期待 ②新しい視点で工夫を加えた加工品を開発してほしい ③継続的課題解決活動に取り組み、地元との連携を築いてほしい |
| 26 | 静岡県／東伊豆町 | ①エコタウンとしての売り出しに向けたガイドシステムの研究 ②地域づくりインターンとしての学生の参加 ③オリーブの里づくりへの大学の参画 | ①エコ資源の活用方法の提案 ②従来より長期的な関わりが可能な大学生の派遣 ③オリーブの栽培の可能性について、植樹の段階からの研究を希望 |
| 27 | 静岡県／南伊豆町 | ①竹の子振興方策の検討一産地化に取り組んでいるが、竹林の利活用についての研究が必要 ②過疎地域における公共交通サービスの在り方の検討が課題 | ①従来と異なる新たな竹の子の活用策の提案に期待 ②集落が分散し、主要道路周辺のみを運行するのではカバーしきれない、公共交通網維持の問題の検討に期待 |

【第2期課題一覧】

| No. | 応募団体／関連団体 | 現在困っていること（地域課題）について | 大学に期待する支援について |
|-----|---------------------------------|--|---|
| 1 | 東伊豆町観光協会（東伊豆町） | 東伊豆のジオスポット・細野高原の「すずき祭り」は、町民による活動が実を結び集客が伸び始めた現在、さらなる活動の展開が課題となる。町内へ観光客を誘導するための食品開発・土産物の展開などを通じて、細野高原・東伊豆の価値を高めていきたい。 | 学生たちには細野高原イベント委員会へ参画という形での支援を期待する。参画することによって実行委員会や地域住民と交流を図るとともに、地域の実態を学生たちの目線で捉え、問題提起・解決方法の提案・提案の実行を実行委員会や当団体とともに作り上げていきたい。 |
| 2 | 静岡市葵生涯学習センター 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団 | 静岡市生涯学習センターは地域住民が豊かな人生を送るための場として活用されているが、学生・勤労者層は利用率が低い。すべての地域住民の生涯学習活動を充実し、地域と密着した活動とするため、事業の企画立案・運営に地域住民自身、特に若年層が参画することが重要である。 | ①市民協働・若者参画による生涯学習の活性化のため継続的な意識調査において、企画・実施・分析作業を支援してほしい。 ②若年層に対して、施設や生涯学習の認知を高めるための手法を開発・事業実施をしているが、そのプロセスに参画してほしい。 ③実習生制度への学生参加を推進してほしい。 |
| 3 | 富士のさとの森づくり実行委員会（御殿場市） | 国立中央青少年交流の家には様々な樹木が存在するが、一定の考え方をもちて植栽するべきであるとの意見が寄せられている。すでにランドデザインが一応存在しているが、これをひとつのたたき台にしてコンセプトを固めていくことが必要である。 | ①学生の意見を反映した森づくりのランドデザインの再構築作業 ②ランドデザイン再構築に必要な森林の伐採等の作業 ③既存の草花の生育等に配慮した環境の専門家の指導助言（整備時期、整備内容の決定） |
| 4 | 松崎町 | 旧依田邸は築300年以上の歴史をもつ建造物で、伊豆半島の発展の原点であり、歴史的・文化的な価値が高いが、修繕・保存という課題に直面している。また町の地域資源として活用し、まちおこしの拠点とする方策を立案・実行することも課題である。 | 最少の費用で最大の効果のある維持や修繕方法を一緒に考え、歴史ある建造物を利用したまちづくり手法を提案してほしい。教職員・学生を送り出してフィールドワークとして支援していただきたい。 |
| 5 | 松崎町 | 当町では近隣に大学がなく、せっかく素晴らしい公開講座などがあっても、移動時間を考えると参加をあきらめるしかない。また、大学生との交流に時間とコストがかかるため、いつ何時でも交流が持てる状態にない。 | 今夏オープンした、シェアオフィス「ふれあいと一ふや。」において、静大の公開講座を受講できるように配信を検討していただきたい。大学生との交流にも使っていただきたい。 |

| No. | 応募団体／関連団体 | 現在困っていること（地域課題）について | 大学に期待する支援について |
|-----|-------------------------------------|--|---|
| 6 | 松崎町 | 松崎町が抱える課題として、人口集中地域から遠いこと、交通手段が整っていないことがあげられる。そうしたハンディキャップを克服して交流を進める方法としてのICTの活用が考えられる。光ファイバー網の整備をしたが、利活用の具体的な方法が見つからずにいる。 | 防災や観光、福祉をICT技術で地方の不利、不便さを解消できる技術や提案の提供。 |
| 7 | 松崎町 | 全国で活発に行われているふるさと納税だが、当町では返礼品競争ではないふるさと納税本来の趣旨を踏まえた活性化を検討しているが、思ったように納税額が伸びない。 | 外部から見た松崎町の魅力を探り、そのうえでどのような返礼品やどうしたら納税満足度があがるかを一緒に研究してほしい。 |
| 8 | 松崎町 | 町内に大学の施設や研究室などがいないため、産官学の連携した取り組みができない。また、仕事が少ないため若い人が出ていく。 | 新しい働き方や隙間産業などを学生と一緒に考案していただきたい。 例：耕作放棄地や放棄果樹園を集約し、都市部の週末農業体験のニーズへ繋げるなど。 |
| 9 | 茶夢来（菊川市） | 環境整備や農業を核とした新たなライフスタイルを実現する地域づくりが必要となっており、食と農の拠点創造、食育の場づくりを目指している。地域住民の意識調査やニーズ調査をベースに、地域住民が一体となった取り組みを行っていききたい。 | 農業を核とした食育、地域食材を活用した商品開発、レシピ開発、ノルディックウォーキングを活用した地域健康づくりと観光開発など地域が一体となったまちづくりを目指したい。菊川ブランドのストーリー性の創造に大学の支援をいただきたい。 |
| 10 | NPO法人富士川っ子の会（富士市） | 地域全体に「かわっこカフェ」の存在を周知し、自由に集える居場所であることを認知させる手立てを見出すことが課題である。参加者には「かわっこカフェ」の存在意義が理解されつつあるが、地域住民に「一度は行ってみようと思わせる仕組みの工夫」が必要である。 | 遊び塾と「かわっこカフェ」の活動を通して、次の点を明確にしたアドバイス。 1. 地域に求められている居場所とはどんなものか 2. それはどのように形作られるべきか 3. 地域での連携に欠かせないものは何か |
| 11 | NPO法人富士川っ子の会（富士市） | 富士市の高齢化率は全国平均程度だが、要介護者数が多く深刻な問題となっている。解決法として、高齢者が後期高齢者の介護を担当するようにして、循環型の介護要員を確保するという構想のもとで活動を進めている。 | 課題に対応する団体設立の可能性と実現のために必要なことのアドバイスをいただきたい。 1. 介護者と要介護者の区分方法 2. 適正報酬額の算出 3. 団体の設立及びあるべき介護支援形態 |
| 12 | 自立支援プログラム実施 自立援助ルーム 訪問レストランf（浜松市北区） | 障害に対しての理解と認知が低すぎ、まだ障害者であることをカミングアウトできない社会性が問題である。自立して一人暮らしする障害者も増えてきたが、結果的に介助者の手を借りるため、介助者本位のサービスを受けている。本来的な意味での自立援助が必要である。 | ①事業自体が本格始動していないので、まず、グレーゾーンにどれくらいの障害者が存在しているのか示してほしい。 ②障害者のための恋愛対策に共に踏み込んでほしい。 ③理解促進を深めるための方策を検討してほしい。 |
| 13 | 認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ（浜松市西区） | 障害福祉サービス事業所「アルス・ノヴァ」では、毎日30名以上の障害を抱えた方々が通ってきている。「多様で寛容な社会」の実現のため、できるだけ多くの人にこの場を体感してもらいたいが、一般の方々に足を運んでもらうことが難しい。 | ①学生たち自身が障害者福祉施設を体験・体感してほしい。 ②その体験をもとに、どうしたら自分の知り合いが障害者福祉施設に興味をもつのか考え、実際に身近な人を誘ってきてもらいたい。 ③広く一般の人に関心をもってもらうための方法を共に考え実行していきたい。 |
| 14 | 空き家再生プロジェクト（静岡市駿河区） | 空き家の利活用を促進し、地域社会の活性化に貢献することを課題として、次のような活動をしている。 ①空き家に関する研究活動（発生と利活用方法、意識調査） ②空き家の利活用に向けた啓発活動（イベント・セミナー） ③空き家再生活動（マッチングサポート・リノベーション） | 積極的にまちづくりに関わることを目指して、空き家を再生したサテライト研究室を設けて、地域を活性化するためのリサーチ・研究を進めているが、この活動に継続的に関わってもらいたい。 |
| 15 | 南伊豆町 | 伊豆半島最南端に位置し、人口減少と地方経済の縮減が続き、その克服が基本的課題である。一方、豊かな自然環境をはじめとした地域資源も有し、大都市圏との連携を取りながら健康創造のまちづくりを進めているが、大学と連携することによってそうした取り組みを加速できる。 | 宿泊型のフィールドワークや長期休暇を利用したインターンシップ等を企画し、南伊豆ならではの地域資源を活かしたまちづくりに関わってほしい。 |

5 主催事業

①地域課題解決支援プロジェクト・公開シンポジウム「地域課題をめぐるつながりの可能性」

地域の様々な課題を公募し、その解決支援を試みる「地域課題解決支援プロジェクト」も7年目を迎え、各地で展開する様々な地域課題に対する取り組み、地域と大学との新たな連携・協働の事例に学びながら、地域社会の中で展開することによって広がる教育と研究の可能性を探った。

・日時：2019年12月26日（木）13:15～17:00

・会場：静岡キャンパス共通教育A棟301

・プログラム：

(1) 地域連携・課題解決支援の事例報告

①「伊豆半島における地域づくりの課題と可能性」報告：深澤準弥（松崎町教育委員会）、山口一実（南伊豆町地方創生室）、荒武優希（NPO法人ローカルデザインネットワーク）

②「知的障害者の「生きる力」をアートで伝え「多様で寛容な社会」をクリエイトする」報告：久保田 翠（NPO法人クリエイティブサポート・レッツ理事長）

③「しずおかキッズカフェ」報告：小林タバサ（しずおかキッズカフェ代表）

④「フューチャーセンター×地域 各地の取り組み事例から」報告：増田彩香・小田しずく（静大フューチャーセンター）

⑤「農業をもっと身近に～学校放課後児童クラブにおける活動報告～」報告：榎原宏美（静岡県立静岡農業高等学校）、いきものがかり

(2) パネル・ディスカッション

・パネリスト：報告者、課題提案者

・コーディネーター：阿部耕也（静岡大学地域創造教育センター教授）

・参加費：無料

・参加者数：71人

②地域連携セミナー「学ぶって楽しい！～大学で学ぼう～」

障害者の就労を支えるためには、余暇の充実や生涯学習が重要であり、近年、大学での実践が多数報告されている。学びの環境づくりと効果的な支援を提供することを目的に2019年度は3回、それぞれ別の内容で実施した。

[第1回]

・開催日：2019年6月23日（日）

・プログラム：

①（演習）「アイスブレイク～学びのなかま～」

②（映画鑑賞）「イーちゃんの白い杖」

・参加者数：41人

[第2回]

・開催日：2019年10月27日（日）

・プログラム：

①（演習）「アイスブレイク～学びのなかま～」

②（講義）「楽しく歩こう、正しく歩こう」

・参加者数：24人

[第3回]

・開催日：2019年12月8日（日）

・プログラム：

①（演習）「アイスブレイク～学びのなかま～」

②（講義1）「日本猫事情」

③（講義2）「台湾文化を学ぶ」

・参加者数：24人

[共通事項]

・会場：静岡大学学生会館3Fホール

・参加費：無料

- ・参加対象：静岡市と周辺の地域の障害のある社会人
- ・企画：静岡県障害者就労研究会

③静岡大学公開講演会

障害者を取り巻く教育、労働等の諸問題について、法律等の現状と今後の対策を専門家が解説した。保護者および学校関係者等が参加した。2019年度は3回実施した。

[第1回]

「特別支援学校学習指導要領の改訂のポイント～学びの連続性、自立と社会参加をキーワードに！～」

- ・日時：2019年6月23日（日）13:30～15:00
- ・講師：山元 薫（静岡大学教育学部准教授）
- ・参加者数：35人

[第2回]

「地域で働き暮らすために～障害者雇用に関わる法律と障害者雇用の現状～」

- ・日時：2019年10月27日（日）13:30～15:30
- ・講師：松為信雄（東京通信大学人間福祉学部教授）
- ・参加者数：48人

[第3回]

「働き続けるために・生涯学習編」

- ・日時：2019年12月8日（日）13:30～15:30
- ・講師：神田基史（帝京大学教育学部教授）
- ・参加者数：35人

[共通]

- ・会場：静岡大学学生会館3F ホール
- ・参加費：無料
- ・参加者：一般市民、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員、学生
- ・企画：静岡県障害者就労研究会

④地域人材育成研修事業「伊浜でカルタ！」

地域社会の課題を題材とした教育研究活動を拡充し、学生および地域住民を対象とした持続可能な教育プログラムを構築するために必要なことを学ぶ目的で実施した。

[春編]

- ・日時：2019年6月30日（日）11:00～16:00
- ・内容：春版の絵札・読み札の作成と冬版カルタの選考
- ・参加者数：16人

[夏編]

- ・日時：2019年8月18日（日）10:30～17:30、19日（月）6:30～12:00
- ・内容：夏の伊浜区取材と夏版絵札・読み札の作成および春版カルタの投票・選考
- ・参加者数：24人

[冬編]

- ・日時：2020年2月8日（土）11:00～16:00、9日（日）
- ・内容：秋・冬版の絵札・読み札の作成と夏版カルタの選考
- ・参加者数：30人

[共通]

- ・会場：伊浜山村活性化支援センター（賀茂郡南伊豆町）
- ・参加費：無料

⑤地域連携応援プロジェクト「地域連携報告会」

キャンパスのある地域だけでなく、県内各地で展開する静岡大学と地域が連携して取り組んでいる事例を報告した。

- ・日時：2019年9月18日（水）14:30～15:30
- ・会場：藤枝市産学官連携推進センター
- ・プログラム：
 - ①「静岡県中部での大学連携の取り組み」報告者：川原崎知洋（静岡大学教育学部准教授）
 - ②「浜松市天竜区佐久間町フィールドワークの活動報告」報告者：木下湧太（静岡大学地域創造学環4年）、皆田潔（静岡大学地域創造教育センター准教授）
- ・参加者数：13人
- ・参加費：無料

6 共催事業

①地域づくり人材研修事業・公民館主事等研修会

公民館活動等を通じて生涯学習事業を展開している生涯学習指導者への教育研究情報の提供、大学とのネットワークづくりや指導者の資質の向上を図り、公民館の事業や活動を効果的に推進することを目的として、静岡県教育委員会との連携事業として実施した。

公民館を取り巻く環境は近年大きく変化し、社会教育・生涯学習の場として、また人材育成・地域づくりの拠点として、これまで以上に地域の住民・機関・団体との連携・協働が求められている。地域のもつ資源、人材、ネットワークを活かしながら、子ども・若者など若い世代の学びを支え、世代間交流を活性化し、地域づくりにつなげる方策を探った。

- ・日時：2019年11月29日（金）10:20～16:00
- ・会場：静岡市長田生涯学習センター
- ・プログラム：
 - ①基調報告「駄菓子屋染校と地域づくり～つながりを育む社会教育～」
講師：松田道雄（尚絅学院大学教授）
 - ②事例報告1「住み慣れたまちにずっと安心して暮らすために」報告者：清水美江（磐田市田原交流センター/平成30年度優良公民館表彰館）
 - ③事例報告2「地域で創る学習支援教室～誕生から3年目のしまだはつくら寺子屋～」報告者：西田正鋭（島田市初倉公民館館長）
 - ④事例報告3「学校と地域をつなぐ「地域連携担当教職員」」報告者：遠藤淳平（静岡大学教職大学院2年）
 - ⑤事例報告とグループワーク「親子と地域をつなぐ」
- ・参加者数：45人
- ・参加費：無料
- ・主催：静岡県教育委員会、静岡大学地域創造教育センター

7 企画協力事業

①静岡市・5大学連携事業 市民大学リレー講座「海から考えるしずおかの魅力」

- ・日時：2019年9月21日（土）～11月23日（土）[全5回] 10:00～11:45
- ・会場：静岡市役所清水庁舎
- ・プログラム：
 - ①9/21（土）「インバウンド市場の現状と課題～クルーズ船市場も含めて～」講師：北上真一（静岡県立大学特任教授）

- ② 10/5 (土) 「食の考古学～海産物の今昔物語～」 講師：丸山真史 (東海大学講師)
- ③ 10/26 (土) 「広めよう!駿河湾の魅力」 講師：宗林留美 (静岡大学准教授)
- ④ 11/9 (土) 「海と作物」 講師：前田節子 (静岡英和学院大学教授)
- ⑤ 11/23 (土) 「清水港を活かした観光戦略を考える」 講師：須佐淳司 (常葉大学准教授)

・参加費：無料

・受講者数：延べ158人

・主催：静岡英和学院大学、静岡県立大学、静岡大学、東海大学、常葉大学、静岡市

②吉田町シニアカレッジ (第15回一般教養講座)

「駿河湾地震説から45年、南海トラフ巨大地震はどこまでわかったか」

・日時：2019年8月28日 (水) 10:00～12:00

・講師：生田領野 (静岡大学理学部・防災総合センター准教授)

・会場：吉田町中央公民館

・受講者数：25人

③大学特別公開講座「脳科学 環境 AI 新たな時代を生きる3つのヒント」

・日時：2020年1月24日 (金)～2月7日 (金) [全3回] 19:00～20:45

・会場：吉田町中央公民館

・プログラム：

① 1/24 (金) 「環境は持続可能か～微生物による環境浄化の開発～」 講師：新谷政己 (静岡大学工学部准教授)

② 1/31 (金) 「人工知能が拓げる農業の可能性」 講師：峰野博史 (静岡大学情報学部教授)

③ 2/7 (金) 「日常と非日常からみる ところと脳の科学」 講師：宮崎 真 (静岡大学情報学部教授)

・参加費：2,000円

・受講者数：延べ77人

④静岡市北部生涯学習センター講座「実例から学ぶマーケティング」

・日時：2020年2月8日 (土)～2月22日 (土) [全3回] 14:00～16:00

・会場：静岡市北部生涯学習センター

・プログラム：

① 2/8 (土) 「マーケティングの仕組み」

② 2/15 (土) 「マーケティングにおける組織体制」

③ 2/22 (土) 「顧客接点とマーケティング」

・講師：牛場 智 (静岡大学人文社会科学部・地域創造学環准教授)

・参加費：無料

・受講者数：13人

・主催：静岡市北部生涯学習センター

⑤県議会議員と学生による意見交換会

・日時：2019年11月7日 (木) 14:00～15:00

・会場：静岡大学静岡キャンパス

・テーマ：静岡県を若者が住みたいまちにするために

・参加者：静岡大学地域創造学環・日誌ゼミ学生7人、静岡県議会議員2名

8 市民開放授業

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目の一部を一般市民の方に開放し、正規学生と一緒に受講できるようにしたもので、2005年度から実施している。受講者数、開講科目数等のデータは以下の表のとおりである。

①受講者数

| 年度 | 受講者数 | 平均年齢 |
|--------|------|------|
| 2015年度 | 298 | 65.0 |
| 2016年度 | 281 | 66.3 |
| 2017年度 | 280 | 67.0 |
| 2018年度 | 284 | 66.1 |
| 2019年度 | 300 | 68.1 |

②開放科目数

| 年度 | 全学 | 人文 | 教育 | 理 | 農 | 工 | 情報 | 学環 | 計 |
|--------|-----|-----|----|-----|----|----|----|----|-----|
| 2015年度 | 92 | 106 | 14 | 111 | 73 | 10 | 11 | | 417 |
| 2016年度 | 94 | 102 | 15 | 108 | 73 | 10 | 10 | 1 | 413 |
| 2017年度 | 102 | 110 | 19 | 114 | 71 | 10 | 11 | 1 | 438 |
| 2018年度 | 96 | 104 | 17 | 112 | 60 | 10 | 11 | 2 | 412 |
| 2019年度 | 77 | 97 | 17 | 116 | 61 | 10 | 10 | 3 | 391 |

③受講科目数

| | 全学 | 人文 | 教育 | 理 | 農 | 工 | 情報 | 学環 | 計 |
|--------|----|----|----|----|----|---|----|----|-----|
| 2015年度 | 50 | 65 | 4 | 36 | 20 | 2 | 4 | | 181 |
| 2016年度 | 58 | 65 | 3 | 29 | 15 | 2 | 1 | 1 | 174 |
| 2017年度 | 58 | 71 | 6 | 30 | 22 | 3 | 5 | 1 | 196 |
| 2018年度 | 47 | 67 | 5 | 33 | 21 | 2 | 4 | 2 | 181 |
| 2019年度 | 41 | 70 | 7 | 33 | 20 | 4 | 3 | 3 | 181 |

④受講者状況

□居住地別受講者数

| 居住地 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 伊豆の国市 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 |
| 伊東市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 下田市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 熱海市 | 3 | 2 | 2 | 0 | 0 |
| 裾野市 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 沼津市 | 4 | 4 | 5 | 6 | 5 |
| 富士市 | 5 | 8 | 11 | 10 | 10 |
| 富士宮市 | 0 | 2 | 0 | 2 | 8 |
| 三島市 | 3 | 4 | 2 | 1 | 0 |
| 駿東郡 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 御殿場市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 菊川市 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 掛川市 | 2 | 3 | 0 | 2 | 1 |
| 静岡市 | 195 | 189 | 173 | 172 | 168 |
| 藤枝市 | 14 | 13 | 13 | 24 | 27 |
| 焼津市 | 11 | 8 | 12 | 11 | 20 |
| 磐田市 | 8 | 6 | 8 | 7 | 5 |
| 御前崎市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 湖西市 | 1 | 0 | 0 | 4 | 0 |
| 島田市 | 9 | 7 | 7 | 5 | 2 |
| 榛原郡 | 2 | 1 | 3 | 1 | 2 |
| 浜松市 | 33 | 31 | 37 | 32 | 45 |
| 袋井市 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 牧之原市 | 2 | 0 | 1 | 4 | 4 |
| 周智郡 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 神奈川県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |

| 居住地 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 山梨県 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 愛知県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 三重県 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 計 | 298 | 281 | 280 | 284 | 300 |

□年齢別受講者数

| 年齢 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ～19 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 |
| 20～24 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 25～29 | 5 | 0 | 3 | 3 | 1 |
| 30～34 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 |
| 35～39 | 4 | 2 | 0 | 4 | 2 |
| 40～44 | 5 | 8 | 6 | 2 | 0 |
| 45～49 | 5 | 2 | 4 | 10 | 5 |
| 50～54 | 15 | 10 | 5 | 9 | 10 |
| 55～59 | 10 | 13 | 8 | 10 | 14 |
| 60～64 | 58 | 48 | 50 | 50 | 49 |
| 65～69 | 106 | 105 | 99 | 80 | 74 |
| 70～74 | 51 | 50 | 54 | 68 | 87 |
| 75～79 | 26 | 32 | 34 | 34 | 41 |
| 80～84 | 11 | 8 | 9 | 6 | 10 |
| 85～89 | 0 | 1 | 5 | 4 | 6 |
| 計 | 298 | 281 | 280 | 284 | 300 |

□一人あたりの受講科目数

| 受講科目数 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1科目 | 194 | 196 | 179 | 177 | 195 |
| 2科目 | 70 | 62 | 72 | 68 | 66 |
| 3科目 | 16 | 14 | 15 | 20 | 20 |
| 4科目 | 13 | 7 | 8 | 12 | 10 |
| 5科目 | 2 | 1 | 2 | 5 | 5 |
| 6科目 | 1 | 1 | 0 | 1 | 3 |
| 7科目 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 8科目 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 9科目 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 10科目 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 計 | 298 | 281 | 280 | 284 | 300 |
| 延べ受講科目数 | 467 | 401 | 444 | 460 | 477 |